

助手の青山佳矢先生登場！

レポーター 中本佳代子



印刷機のトラブルにもすぐ対応！



中本レポーター(左)と青山助手(右)



青山研究室でデスクに向かう



学習支援室の担当も！

中本「こんにちは！ レポーターは、初教二十期生、本学総合支援課勤務の中本佳代子です。長いこと勤務しているのに、不思議と今までこの“初教かわらばん”の裏方専門で、表舞台に出ることの少なかった、助手の青山さん。是非とも今回はマドンナになってほしいと思い、巷（ちまた）では青山さんの姉と呼ばれている(笑)、この中本がレポーターを買って出ました！ よろしくをお願いします。」

青山「うわあ、とても嬉しい！ お姉ちゃん、ありがとうございます(笑)。」

中本「何言ってるのよ。私だって、ここに出られて鼻が高いし、私の方が目立たせてもらうからね！ あっ、嘘、嘘！ で、率直なところ、五年前になるんだけど、勤務当初、やっぱり苦労があったんじゃないかなと思うけど、どうでしたか？」

青山「そうですね…。今となってはいい思い出なんですけど、卒業してからすぐに、例えば、四年生と接するわけですよね。一歳しか変わらないんです、年齢的に。それで、学生と年齢が近すぎるというのは、正直言って苦労しましたね。」

中本「それって、私もよくわかる！ 頑張っ乗り越えたね。他にもあったかなあ？」

青山「学生時代と、初教のスタッフの一員となってからとでは、違

いが大きすぎるのかなあ。助手の仕事一つ取ってみても、まわりで見ていたのと現実にするのとは、大きな違いがありました。理想と現実ってことになりますかね。この面では、他にも戸惑ったことも多かったですよ。」

中本「なるほど。例えば、初教の先生って、個性派揃いだもんねー。対応に戸惑ったこともあったでしょう？」

青山「最終的には、色々と助けてもらうことが多いです。」

中本「最後に、助手をしてきて、本当によかったなあということをお聞かせ下さい。」

青山「とにかく、実習に関する仕事が多いです。苦労はしますが、実習前の指導を何とか終えて、実習中も色んな突発的な事態に対応して…。それで、みんなが実習先から戻ってくる、と。その時、実習前とは見違えるほど成長して、表情にも自信が溢れていて、…(涙)。そんな、学生たちの成長が見られるっていうのが最大の喜びです！」

中本「よかったね。苦労が報われて(涙、もらい泣き)。今日は、いい話を聞かせてもらって、本当にありがとう。これからも、学生たちを、そして学科を、よろしくお願いします。」

青山「私にできることを、精一杯していきます。こちらこそ、今日はありがとうございました。」

初教 KAWARABAN

第12号
2010.7.15

広島文教女子大学
教育学会

発行

ほっと ニュース

こんにちは!! さっそくですが、すてきなお知らせです。初教はすごい!! 何がすごいかというと……なんと! 2009年度小学校教員採用試験、合格者56人。そのうち、27人は現役合格なのです!! 広島県小学校教員採用試験では、なんと2次試験合格率85%というすばらしい実績を残しています。小学校・中学校教員の採用において、全国女子大ランキングで第7位です。

また、中国・四国ブロックにおける「生徒を行かせたい大学」ランキングでは「小規模だが評価できる」入学後、生徒を伸ばしてくれる」大学として第3位にランキングしています。

のどかな文教。小さな文教。なぜ、文教はこのような力をつけることができるのでしょうか。そこで、今回は各コース・専修の学生に、ゼミでの様子や取り組み等について、話を聞いてみました。学生の頑張りについて、紹介したいと思います。

国語科 2年次に行なった授業研究をさらに発展させて、3年次では教材研究を深め、これからは模擬授業をしていく予定です。

書写書道 2年次には、子どもと保護者を対象とした「書道ワークショップ」に取り組んだり、合同発表会や大学祭で展示をしたりしました。今年度も、合同発表会に向けて、絵手紙などの制作を行っています。

算数科 2年次では理想の教師像を深めたり、算数の内容を深めたりするために本を読み、レポート発表を行ってきました。今は、学習指導案を書いたり模擬授業を起こったりしています。

社会科 模擬授業を行い、その後の協議会で振り返りをし、内容を深めています。

理科 2年次では学習指導要領の各単元の内容について調べ、その単元を扱うときに教師として知っておくべきことや関連することについてまとめました。それを生かして、今は模擬授業の取り組みを行なっています。

音楽科 毎月行なわれるロビーコンサートに向けて、日々練習に取り組んでいます。たくさんのかたに演奏を聴いてもらったときの喜びを感じ、音楽を愛する気持ちを大切にしています。

図画工作科 今年度は実際に原爆ドーム周辺へ行き、スケッチを行いました。今は、それに色をつけている最中です。絵を描くことを通して、図画工作で表現することのよさをゼミ生自らが実感しています。

体育科 論文を読んでレポートにまとめたり、実際に運動をしたりすることを通して、体育の意義について学んでいます。

教育学 2年次では教育に関する疑問について討論を繰り返し、3年次では「優れた授業とは何か」を道徳の授業をもとに考えています。レポートの作成や討論をするなかで、一人ひとりの学びの質を高めることを目指しています。

教育心理学 2年次では、様々な実験を行ないながら、統計学を学びました。3年次でも、各種実験を行ないながら、ディスカッション等を通して、課題解決を目指しています。実験の準備は大変ですが、ゼミ生一同、協力して頑張っています。

幼児教育 設定保育のための指導案を書き、それをもとに模擬設定保育を行なっています。また、一曲でも多くレパートリーを広げられるように弾き歌いの練習なども日々頑張っています。

また、今、4年生は教員採用試験や公立保育士試験・幼稚園適性試験などに向けてがんばっています。放課後はもちろん、休みの日も学校に来て勉強をしたり、ピアノの練習をしたりしています。少しの息抜きを忘れずに、つらいときはお互いに励ましあいながら仲間とともに最後まで乗り越えていけるよう、日々奮闘中です。

なるほど! 初教の学生はこのような学びをしているから、目標を実現することができるのですね。納得(^▽^) 各コース・専修の中での学びの様子や取り組みからもわかるように、初教では学生同士のつながりや学生と教員とのつながりが深いです。たとえ、つらいことや大変なことがあっても、お互いに励まし合いながら頑張ることで、乗り越えていけます。これからも、初教は、先輩が残してくれた輝かしい実績に続けるよう、日々頑張っていきたいと思ひます(^ ^)



報告者：編集代表
学科長 岡 利道

とうとう著作完成!

初等教育学科編 『初等教育学入門』

編集委員 岡 利道・徳本 達夫・田頭 穂積

本年度は、初教にとって記念となる、学科創設三十周年の年です。広島文教女子大学の平成二十一年度研究出版助成を得て、この度、待望の著書『初等教育学入門』が完成しました。これまでの歩みをふりかえり、学科の教育の特色を、一冊の著書としてまとめたいと考え、初等教育学科教員オールキャストで、執筆にあたりました。直接には、学科一年生の後期科目「人間科学基礎演習」のテキストとして編集されたものです。学科の伝統、すなわち歴代の教員、そして卒業生や在学生のおかげで中身が充実し、立派な本にすることができたのだと、正直にそう思います。編集は岡・徳本・田頭で、執筆は教員全員で取り組みました。内容は、次のとおりです。

- 第1章 学科の歴史と伝統
 - 第1節 現在の人材育成目標
 - 第2節 学科創設当時のこと
 - 第3節 創設時にめざしていた「特色のある教育内容」
 - 第4節 自己改革の取り組み
- 第2章 逞しい初等教育実践者に求められる資質
 - 第1節 教育学の観点から
 - 第2節 教育心理学の観点から
- 第3章 4年間の授業で主体的な学びを
 - 第1節 大学生活を始めるにあたって
 - 第2節 4年間の学びの流れ
 - 第3節 教育情報学の場合
 - 第4節 教科教育法・理科の場合
 - 第5節 書写書道教育とその演習の場合
 - 第6節 野外活動指導法の場合(山実習・海実習)
 - 第7節 幼稚園・保育実習の場合
 - 第8節 小学校実習の場合
 - 第9節 卒論(発表会、ポスターセッション)・卒演・卒展の場合
- 第4章 将来を切り拓く
 - 第1節 大学院・専攻科への進学
 - 第2節 広島文教女子大学教育学会への参加
- 第5章 学びを支える仲間づくり
 - 第1節 ゼミ・勉強会・学科行事など
 - 第2節 大学祭合唱・学科卒業式など



できあがった
学科著書

卒業生の皆さんが、この本の購入を希望されるかもしれません。現在、編集委員会で、どのような方法で頒布するか、検討中です。ご希望の方は、sgakkai@h-bunkyo.ac.jpまで、Eメールにてお問い合わせください。